

兵庫子ども支援団体の活動は、皆さまからのご寄付によって支えられています。
これからも子どもたちに学習の機会や安心して過ごすことができる居場所の提供、
体験する機会の提供など社会課題を解決するための様々な活動を行うため、
ご支援をお願いいたします。

継続的に 寄付をする

月1,000円からの月額寄付で兵庫子ども支援団体の活動をご支援いただけます。ウェブサイトから簡単にクレジットカードでお手続きいただけます。
また、口座からの自動引落もご利用いただけます。



WEB <https://campaign.hpcso.com/>

今回のみ 寄付をする

ご都合のよいときにご寄付いただけます。

銀行振込

三井住友銀行
明石支店(店番号425)
特定非営利活動法人兵庫子ども支援団体
カナ名義:トクヒョウゴコトモエイドンタイ
口座番号:普通 7066924

郵便振替

口座記号:14340
口座番号:94027001
口座名義:トクヒョウゴコトモエイドンタイ

WEB <https://hpcso.com/donate>

その他

寄付型自動販売機の設置や物品寄付など
様々な方法によって、支援していただけます。
詳しくはホームページをご覧ください。



特例認定特定非営利活動法人兵庫子ども支援団体

〒673-0038 兵庫県明石市別所町8番11号

Tel:050-5586-5448 / Fax:050-3488-0600 / Web:<https://hpcso.com>

Twitter:@hpcso / Facebook:<https://www.facebook.com/hpcso>

子どもが笑って過ごせる地域の形成をめざす
特例認定NPO法人兵庫子ども支援団体
NPO Hyogo children supporting organization

子どもが笑って過ごせる地域の形成を目指す

特例認定NPO法人兵庫子ども支援団体

2020年度 年次報告

2020 - 2021



HPCSO Annual Report

兵庫子ども支援団体と子どもたちをご支援してくださっている皆さまへ
感謝を込めて。



1 小・中学生に加えて 高校生向けの学習支援も実施

2020年度はこれまでの小・中学生への学習支援[明石かがやき]に加えて、高校生向けの学習支援[ハイスペース]がスタートしました。

開催数 計 **103**回

参加者 延べ **350**名

2020年度在籍していた中学3年生は1名で、公立高校へ進学いたしました。

2 LINE相談の登録者数が 400名を突破

友達や学校のこと、進学のことなど子どもたちは様々な悩みをもっています。一方で、その悩みを相談できずに抱えている子どもも多くおり、ふとした時に相談できる場を設けたいと考え、2020年7月よりLINEを用いた相談事業を本格スタートさせました。

LINE登録者数 年間相談実績
454名 **331**件

※ともに6月末実績

3 県内の子育て世帯55世帯へ 食糧や日用品の支援を実施

新型コロナの感染拡大により生活に困っている子育て世帯が増えていると考えて、食糧や日用品、文房具などの支援をゴールデンウィークにかけて実施しました。県内の子育て世帯55世帯に合計40万円分の支援を届けました。



4 マンスリーサポーターが 40名を突破

2019年度末に30名だったマンスリーサポーターが43名になりました。2021年4月には、サポーターページをリニューアルしました。



5 特例認定NPO法人に



2021年2月1日付けで、兵庫県より特例認定NPO法人として特例認定を受けました。明石市に事務所を置くNPO法人が認定/特例認定NPO法人として指定されるのは初めてです。また、指定されたことにより、当法人への寄付に対して税制上の優遇措置を受けることができるようになりました。

認定・特例認定NPO法人とは？

事業活動や組織運営が適正であり、さらに公益の増進に資すると認められたNPO法人のことです。認定を受けるためには、書類提出に加えて、所轄庁(当法人の場合は兵庫県)の実地調査を受けなければなりません。

全国に認証NPO法人は約50,000法人ありますが、その中で税制上の優遇措置を受けられる認定・特例認定を取得している法人は約1,200法人(約2.3%)のみです。

Our mission

子どもが笑って過ごせる地域の形成

2020年度も、社会全体が新型コロナによる影響を受け続けた一年でした。兵庫子ども支援団体にとっても、対面での活動だけでなく、オンラインを利用した活動、そして、生活苦で困っている子育て世帯への給付支援など新しい取り組みに挑戦し続けた年でした。

特に、2020年7月より本格的にスタートしたStep Linkの登録者数は1年間で400名を超えました。多くの子どもたちが悩んでいて、そしてウェブ検索などで相談するところを探しています。子どもたち一人ひとりに寄り添い、サポートしていくことの重要性を改めて実感しました。

私たちの活動は1年だけで終わるものではありません。何年にも渡って子どもたちやその家庭と関わることで、子どもたちの将来が豊かなものになれば良いと考えています。

実際に、子どもたちの繋がりが続いているなど感じた出来事がありました。2021年の春。私のもとに一本の連絡

が来ました。それは、3年前に学習支援に関わった子からでした。彼は中学校卒業後、通信制の高校に行き、そして専門学校へ進学したそうです。中学校卒業後、ほぼ連絡を取っていなかったのですが、そんな彼から「大学について相談いいですか」と急に連絡が来ました。

話を聞くと、「やりたいことが見つかったからもう一度勉強をし直して、大学に行こうと思っている。だけど、大学受験をしたことがないから何から手をつけたら良いのか分からない」ということでした。彼と1時間ほど話をし、今の状況や高校で学んだことなどを話した上で、「何から勉強したら良いのか」などのアドバイスをしました。

今、多くの人と関わりをもつことは、子どもたちにとって大きな財産、心の支えになると思います。何かあったときに話ができる、相談できる、そんな関係をこれからもつくりたいと思います。

特例認定特定非営利活動法人兵庫子ども支援団体

代表理事 **多田 実乗**

学習支援に関する事業

学習支援[明石かがやき]には、経済的な理由で塾などに通うことができないだけでなく、学校に行きにくくなっている子や発達上の特性をもっている子など様々な子どもたちが参加しています。

私たちが育む力

この十数年でスマートフォンなどが普及したように、これからさらに社会は急速に発展していきます。そのような変化が激しい社会を生き抜くためには、単なる知識だけでなく、その得た知識を活用するための思考力や表現力、探究心、好奇心、他者と関わるためのコミュニケーション能力など幅広い力が子どもたちに必要になると考えています。それらの幅広い力のことを私たちは「総合的な生きる力」と呼んでおり、この学習支援[かがやき]を通して育むことを目指しています。



参加者インタビュー 学習支援[明石かがやき]に参加している中学1年生の男の子に話を聞きました。

—こんにちは、Yくんはいつから参加しているんだっけ？

4年生の終わりごろ...だったと思います。

—[明石かがやき]に参加したきっかけは？

この時は勉強が少し苦手だったから、お母さんに言われて参加しました。

—最初は思った？

最初、塾って聞いたときに嫌だと思った。勉強も嫌いだったし...初めて行ったときも、たくさん人がいて、接するのが苦手でした。

—今はどう？

今もあまり喋れていないけど、勉強が出来るようになってきて、行く抵抗感はなくなりました。

—そうなんだ。ここの活動はどう？

勉強に集中が出来るのがいい。それに、チューターとも話をして仲良くなれたのも良かった。これまで、数学とか苦手な教科もあったけど、優しく教えてくれるから、前よりも出来るようになってきたなと思います。

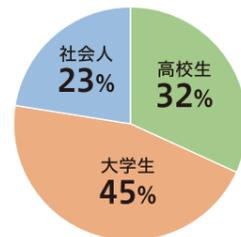
—少しずつできるようになってきているんだね。これから頑張りたいことある？

勉強だけど、[かがやき]に来ている他の子ともっと喋っていきなと思ってます。



学習支援に関わるチューターの声

2020年度 学習支援事業には延べ404名のボランティア(チューター)が関わってくれました。私たちの活動には高校生から社会人まで幅広い年齢の人が参加しています。参加者の割合は右グラフのとおりです。多くのチューターの中から今回は2名のチューターの声をお届けします。



チューターとあ

最初は何か新しいことに挑戦してみたいという漠然とした思いから参加しましたが、参加してみると社会教育活動の企画などで、これまで学生の立場でしか見た事なかった世界を大人の立場から見ることができ、自身の視野を広げることができました。これからは様々な活動を通して子どもたちと信頼関係を築いていけるよう頑張ります！



チューターにしー

子どもたちの置かれている様々な困難な状況を知り、自分にもできることはないかと考えたことが参加のきっかけでした。1週間前までできなかったことができるようになるなど子どもたちの成長の速さには毎回驚かされ、改めて未来への可能性の大きさを感じています。今後もそれを広げていけるようにサポートをしていきたいと思っています。

明石かがやきの日

目標立て 13時30分～13時40分



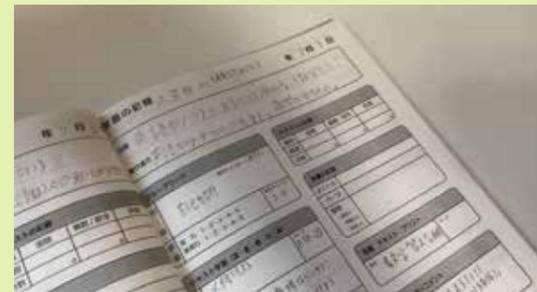
[明石かがやき]は13時30分から始まります。全員で挨拶をした後、学習記録ノートに今日の目標を書きます。目標を立てることで、その日にすることを明確にし、より良い学習支援の時間を過ごせるようにしています。

グループワーク 13時40分～14時10分



グループワークは、一つのテーマについてみんなで考えたり、もの作りをしたり、一緒に遊んだり...と子どもたち同士で関われる時間です。活動を通して、子どもたちの思考力や表現力、コミュニケーション能力を育てています。

振り返り 16時10分～16時20分



最初に立てた目標に対してどの程度達成できたか振り返りをしています。振り返りをする事で、子どもたちのメタ認知力(自分自身を俯瞰して、客観的に観察する力)を育てています。

個別学習支援 14時20分～15時10分 15時20分～16時10分



個別学習支援では、数学と英語について、チューターが付き、子どもたちに応じた支援を提供できるように1対1の学習支援を行っています。単に勉強を教えるのではなく、雑談も行い、子どもたちとのナナメの関係を作っています。

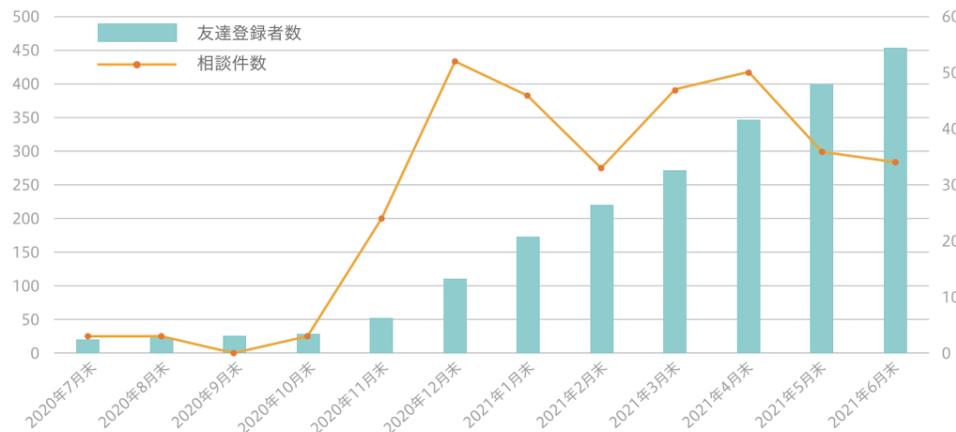
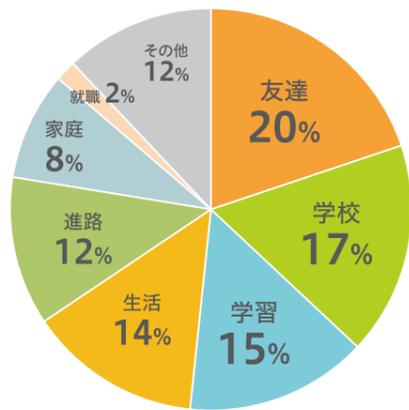
社会教育活動



[明石かがやき]では、子どもたちの好奇心や探究心を育むために、施設見学や体験活動などの社会教育活動にも取り組んでいます。参加した子どもたちの自己肯定感の向上にも寄与しています。



2020年度、331件の相談がStep Linkにありました。331件のうち、49%が高校生からの相談で、33%が中学生からの相談でした。月間の相談件数は12月以降40件前後で推移していますが、長期休業前や新年度にはより多くの相談が寄せられました。また、相談内容について、7月から10月頃までは、主に学習や学習方法に関する相談が多く寄せられていましたが、11月以降は友達関係や学校のことにに関する相談が大半を占めるようになりました。



相談内容の内訳

友達登録者数と相談件数の推移

小学生から高校生まで幅広い年齢の方から相談がありました。クラスの友達とうまく関係を作れず悩んでいる子や高校や大学に悩んでいる子、妊娠してしまったが親に言うことができない子、悩みを抱え込んでしまって、自傷行為を行っている子など様々な相談が寄せられています。私たちは、相談を通して、少しでも悩みを解決する手助けをしていきます。

相談された方からのメッセージ



以前相談しました。その時は本当に落ち込んで何も出来ませんでしたが相談の返答をもとにその後家族や友達にも相談でき今は普通に過ごせてます。色々なことがありましたがLINEで相談できたおかげで1歩進めました。ありがとうございます。



昨年は、お世話になりました。相談させていただいたおかげで、心が軽くなりました。その後は、特に辛いこともなく、楽しく学校生活を送ることができました。本当にありがとうございます。



理事
高松 佑太

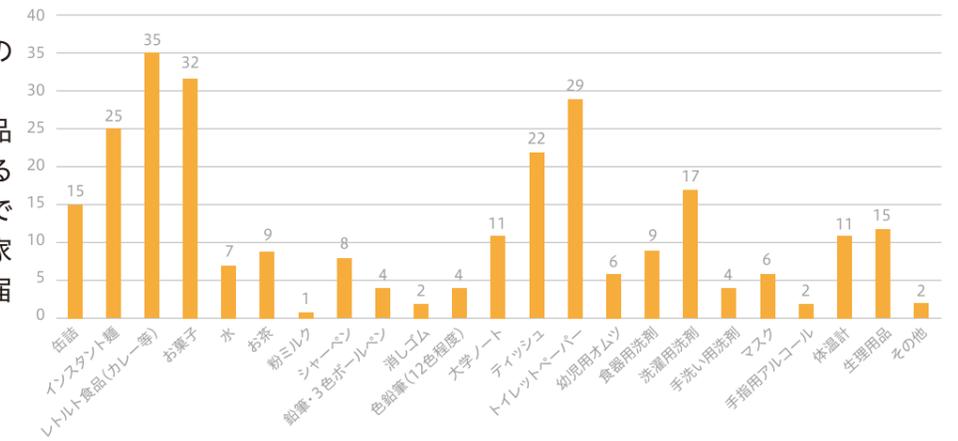
昨年度よりLINEを活用した無料の相談窓口を開設しました。昨今の情報化社会の拡大やLINEの普及という情勢を考慮して開始し、結果として多くの子ども達の相談にのることができました。

私達大人であればあらゆるコミュニティにおいて自分を表現することが可能ですが、ほとんどの子ども達は「学校」と「家庭」という限られた社会で生活することを余儀なくされ、その二つが人生の全てのように感じてしまい、結果として周りからの目が気になったり将来に不安を抱く子どもがとても多いです。

そのような子ども達に『自分を表現しながらどのようにして周りと共に生きていくか』『周りからの目を気にするだけでなく自分がどうしたいか』などを伝えるべく今後も活動していきます。

3回目となる緊急事態宣言が兵庫県に発出された4月から5月にかけて、兵庫県内の子育て世帯に食糧や日用品、文房具などを届ける生活支援デリバリーを実施しました。今回申込をされた方の中には、食費を賄うために生活用品などの購入を見合わせたり、子どもに我慢をさせたりしている家庭もあるなど、先が見通せない中で日々を過ごしている方もいます。

今回送ったものの一覧は右のグラフのとおりです。インスタント麺やレトルト食品など手軽に調理し、食べられるものや普段あまり買えないお菓子を希望される家庭が多く、合計で1,500食を届けました。



利用者からのメッセージ

沢山の支援品が入っていたのと、ノートやトイレトペーパー等毎日使うものなので大変助かりました。子供も久しぶりのプレゼントを貰った気で久しぶりに笑顔になっていました。助けてとなかなかサインを出せないからこそ、ネットでの申し込みは嬉しいです。

心待ちにしていたのでとてもうれしいです。特にお米はもう底をついていたので本当に助かりました！子どもが休み、自分は仕事の日のお昼ごはんの準備に疲れてしまっていたので色々な種類のレトルト食品やインスタント麺を入れていただいて しんどいときはコレもある、という心の余裕になりました。



ボランティアスタッフ
あゆ

新型コロナウイルス感染症による影響が波紋を広げる中、当該活動が皆様の心理的な支えとなれたこと、笑顔をお届けできたこと、非常に嬉しく思います。普段は子どもたちと触れ合う機会しかありませんが、この度、「今私たちにできること」を物的な生活支援という形にすることにより、私たちがお手伝いできる人の輪を広げられたのではないかと感じています。

これからもより多くのご家庭に #ぬくもりを届けることができるよう、また、皆様のヘルプサインに応えられる場所となるよう活動を続けていきます。

2020年度 私たちの活動を応援してくださった皆さま

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、先行きが見通しにくい状況が続く中、兵庫子ども支援団体が地域の子どもたちに学習支援や居場所、体験機会などを提供したり、今必要とされている支援を届けたりすることができるのは、ご寄付いただいている皆様のおかげです。

2020年度のサポーターの皆様をご紹介します。

細井菜穂様	たっきー様	TAKE様	J.F.様	金澤英紀様
福島淳様	さとみ様	ぶんぶん様	赤松依里様	Aki様
のり母様	ただっち様	ブルテリア・ニコちゃん様		
医療社団法人かなもり眼科クリニック様			 一般社団法人 兵庫県産業資源循環協会	

● マンスリーサポーター (定額寄付者) **43**名

2020年度は延べ437名の皆様にご支援いただきました。たくさんのご寄付をありがとうございます。

● 助成団体(敬称略)

- ・中央共同募金会
- ・子供の未来応援基金

● 寄付者の声



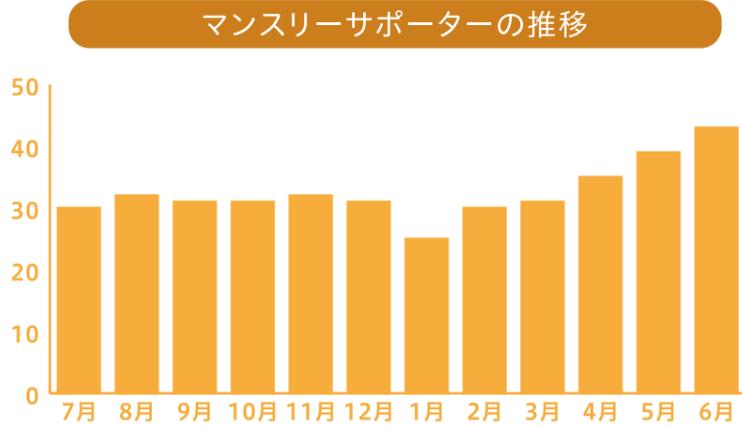
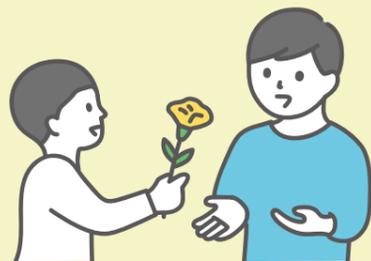
陰山様

神戸新聞でこの団体のことを知り、今年に入ってからサポーターになりました。支援を必要とされている方と直接かかわる機会はないですが、実際のお手紙を拝見し「ありがとう」の文字を見ると、自分まで嬉しくなりました。私ひとりにできることは限られていますが、大勢の人が少しだけ思いやるだけであたたかい社会になると思います。こつこつと、小さな積み重ねを続けていけたらいいな、と思っています。



けいやま様

自分の子と同じ年代の子どもたちが楽しい食事をとったり、勉強の機会が与えられるように活動を応援していきたいです。



財務報告

2020年度(2020年7月1日~2021年6月30日)の決算は、NPO会計基準に則り確定しました。

兵庫子ども支援団体は、2016年10月に策定した特定非営利活動法人としての責務に基づき、透明かつ公正な事業・法人運営を行なっております。透明性の高い財務報告を正しく行うことで、ご支援者様及び市民・県民の皆様への説明責任を果たすとともに、私たちが取り組む社会課題の解決のために、継続的かつ安定的な運営を行なっております。

科目	金額(単位:円)	
【経常収益】		
正会員受取会費	3,000	
受取寄付金	1,476,121	
受取助成金	715,019	
学習支援事業	78,770	
子どもの健全育成事業	900	
情報発信事業	104,700	184,370
受取利息	1	
経常収益 計		2,378,511
【経常費用】		
【事業費】		
業務委託費	37,736	
印刷製本費	60,078	
旅費交通費	95,220	
通信運搬費	140,829	
支援費	399,597	
消耗品費	267,364	
新聞図書費	34,864	
水道光熱費	31,340	
地代家賃	450,000	
貸借料	10,300	
広告宣伝費	132,000	
保険料	35,730	
租税公課	1,050	
支払手数料	10,834	
事業費 計		1,706,942
【管理費】		
印刷製本費	31,519	
旅費交通費	9,380	
通信運搬費	63,684	
消耗品費	28,494	
水道光熱費	10,447	
地代家賃	150,000	
広告宣伝費	98,390	
保険料	6,750	
諸会費	12,000	
租税公課	2,990	
支払手数料	75,989	
管理費 計		489,643
経常費用 計		2,196,585
当期経常増減額		181,926
【経常外収益】		
過年度損益修正益	141,100	
経常外収益 計		141,100
【経常外費用】		
過年度損益修正損	82,230	
経常外費用 計		82,230
税引前当期正味財産増減額		240,796
法人税、住民税及び事業税		82,000
当期正味財産増減額		158,796
前期繰越正味財産額		△149,951
次期繰越正味財産額		8,845

受取寄付金
マンズリーサポーターの増加及び大口寄付の増加によって、昨年度から650,084円増収しています。

受取助成金
新型コロナ感染拡大に伴う助成金や中央共同募金会様、子供の未来応援基金様からの助成金となります。

事業収益
講演活動や執筆など情報発信事業で様々な取り組みを行ったため、昨年度から60,940円増収しています。

事業費-支援費
今年度、新設した科目となります。新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う子育て世帯への食料・日用品・文房具等の支援品を399,597円購入いたしました。

事業費-消耗品費
昨年度から264,027円増額しています。感染症対策のための衛生用品及び資材の購入、オンライン事業を行うためにパソコンを購入したことが影響しています。

事業費・管理費-地代家賃・水道光熱費
地代家賃は通期で600,000円、水道光熱費は41,787円となっています。事務所兼活動拠点として利用しているため、費用を按分して計上しております。

管理費-印刷製本費
昨年度から25,220円増額しています。ご支援者の増加に伴って年次報告書等の印刷部数を増やしたこと、三つ折パンフレットを新たに作成したことが影響しております。

管理費-広告宣伝費
サポーター募集ページをリニューアルしたことにより、大幅に増加しております。

経常外収益・経常外費用
税金の還付及び昨年度の受取助成金返金が発生したため計上しております。

次期繰越正味財産額
3期ぶりに累積赤字が解消いたしました。次年度も事業収益や支援者の増加に取り組むとともに、支出管理を確実に進めていくことにより財務の健全化をはかります。

この活動計算書は会計帳簿の記載金額と一致し、特定非営利活動法人兵庫子ども支援団体の収支を正しく示していることを認めます。

監事 上堀内 信一

※今年度は事業費・管理費ともに人件費の支出はありません。また、その他の事業も実施しておりません。
※紙面の都合上こちらには掲載できませんでしたが、貸借対照表は兵庫子ども支援団体のホームページにて開示しております。合わせてご覧くださいませ。

社会状況に応じた支援の提供

新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し、また先行きが見通しにくい状況が続いています。これまで私たちが取り組んできた活動はもちろんですが、NPO法人として現在の社会状況を見据えた支援を柔軟に提供していくことが必要であると考えています。

兵庫子ども支援団体が、2021年度に取り組む6つの重点目標を紹介します。

1 子どもが安心して過ごすことができる居場所づくりの充実



2 総合的な生きる力を育むための学習支援事業の充実



3 子どもを取り巻く環境を広く啓発するための情報発信の充実



4 子どもに様々な経験を提供するための体験活動及び社会教育活動などの充実



5 子どもに関わる人を育てるための育成プログラムの充実



6 社会状況に応じた支援の充実



兵庫子ども支援団体の活動と
持続可能な開発目標
Sustainable Development Goals



私たちのミッションである「子どもが笑って過ごせる地域の形成」を目指して、2022年度末までに達成する目標を設定しています。

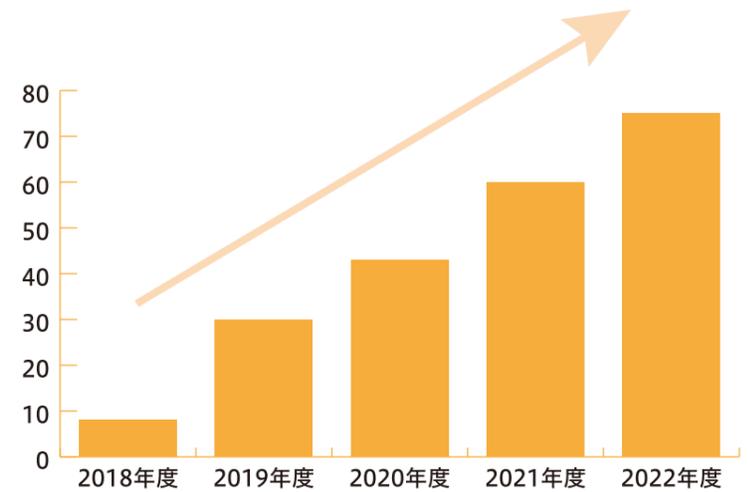
1 兵庫子ども支援団体を継続的に支援していただける方を増やします

マンスリーサポーター目標人数

30名 → 75名
2019年度末 → 2022年度末

2 兵庫子ども支援団体に関わった子どもの数を増やします

434名 → 1,000名
2019年度末 → 2022年度末



管理運営に関わるスタッフの声



私が兵庫子ども支援団体のスタッフとして活動に参加しようと思ったきっかけは大学の授業です。たまたま受けた教育関係の授業で日本の子ども貧困問題や不登校の現状を知り、自分にはできないか調べていたとき、この団体に出会いました。そして現在は広報スタッフとして活動しています。最近は兵庫子ども支援団体のことをより多くの人に知ってもらうために、団体の情報発信を個人のSNSで始めましたが、まだまだ試行錯誤中です。これからも団体の認知度向上に向け、SNSをはじめとした取り組みにより力を入れたいと思います。



昨年からは、会計・申告などのお手伝いをさせていただいています。子どもたちと触れ合える機会がない事が少し寂しいですが、時代は移り変わり、鎌倉幕府も「イクニ」でも「イイハコ」でもなくなりました。年代的に現在の子どもの勉強や悩みに、ついて行けそうにもないなあと言う事で「自分にできる事をやろう。」をモットーに裏方として、お手伝いさせてもらおうと思っています。とはいえ、サポーターの皆様や関係官庁に、団体の活動を数字にして報告することは団体の価値を計る大切な事です。皆さん、財務報告も見てくださいね。



理事
萩原 健太

一斉休校の余波やCOVID-19感染症対策などのために、子どもたちに我慢をしてもらい続ける1年でした。同時に、負担が偏った子どもたちのストレスや不安感を和らげるために何をすれば良いか、個人として、法人として考え続けた一年でもありました。会場の都合で実施できない事業はありましたが、「明石ひみつ基地～おひさま～」では学習支援などを一年を通して滞りなく実施することができました。今年も一年、私を含め学習支援チューター・ボランティアスタッフ一人ひとりがそれぞれ「子どもの居場所」であり続けられたのは、支援して下さる方々のおかげにほかなりません。これからも、皆様と共に末永く子どもたちを笑顔にする活動を続けていきたいと思ひます。よろしくお願いいたします！